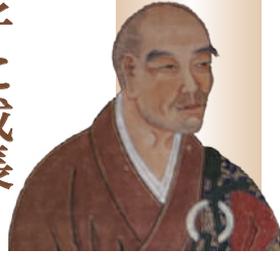


No. 77
2026 Spring

山松舎
臨南寺

特集

がさんぜんじ
峨山禅師ものがたり①



信心深い両親と大自然に見守られ
文殊菩薩の申し子らしく賢い子に成長

瑩山禅師から總持寺の住持職を受け
繼いで二祖とられた峨山さま。それ
は峨山さまが四十九歳の七月のこと
でした。それから九十一歳でお亡くなり
になるまで四十年間にわたり、「五哲」
あるいは「二十五哲」と呼ばれる優れ
た門弟をお育てになりました。そして、
それらの門弟がさらに多くの俊僧を養
成して、曹洞宗の寺院を東北から九州
まで増やし、全国各地に曹洞禅を定着
させ発展させていったのです。

文殊菩薩の霊夢から懐妊

峨山さまがお生まれになったのは一
二七六年。今から七五〇年も前のこと。

能登国羽咋郡瓜生村（現在の石川県河
北郡津幡町瓜生）で生まれました。津
幡町といえば、大相撲の横綱大の里の
出身地として有名になりました。瓜生
村は、能登で最も高い宝達山の南、瓜
生川沿いの山村です。峨山さまはこの
地に住む武士の家に生まれたのです。
両親はとても信心深い方でしたが、
なかなか子宝に恵まれませんでした。
お母さまはいつも「どうか賢い男の子が
生まれますように」と、智慧の仏さまの
文殊菩薩に一心にお祈りをしていまし
た。文殊菩薩は、獅子に乗り右手に剣
を持つ像が多く見られますが、ある晩
のこと、お母さまがその剣を呑み込む

霊夢を見て懐妊したと言われています。
同じような話は、峨山さまの師の瑩
山禅師にも伝えられています。観音さ
まを篤く信じられていた瑩山禅師のお
母さまが、観音堂に日参するうちに輝
く朝日を飲む霊夢によって懐妊した、
というものです。こういった師と弟子の
感応道交をうかがわせるエピソードは、
やがてお二人の心に通い合うものを生
み出す土台になったかもしれませぬ。

大自然のもと賢くたくましく

信心深い両親のもとで温かく育てら
れた峨山さま。瓜生の山や川など大自
然の中でたくましく育っていきまし
た。文殊菩薩の申し子らしく、お母さ
まの願い通り賢い子に成長し、子供
ころから豊かな才能を感じさせる立派
な風貌だったと言われています。

当時は鎌倉時代末期という激動の時
代です。峨山さまが生まれる二年前に
「文永の役」、七年後に「弘安の役」と
いう二回にわたる蒙古襲来がありまし

た。まさに国難の時代であり、武士社
会にも動揺が広がっていました。幼い
峨山さまの周辺にも影響を与えていた
と思われませぬ。

峨山さまが十一歳のころ、お母さま
は突然、峨山さまを連れて近くにあっ
た天台宗の寺院に身を寄せられまし
た。これがなぜなのか？ いろんな憶
測を呼んだ出来事ですが、後年、峨山
さまが瑩山禅師に「年老いた母が天台
宗の寺院でお世話になっているのが唯
一の心配です」と打ち明けています。
その言葉から、一族の中で何か争いごと
が起こって、それを避けるためにお母
さまがその寺院を頼ったと思われませぬ。
その寺院で、峨山さまは掃除など寺
内の雑務を助けることから始め、学僧
としての基礎を学ばれました。成長と
ともにほかの僧と法論をかわされるこ
ともありましたが、峨山さまの論旨は
優れて明確でした。やがて十六歳にな
ると、京都の比叡山に上って本格的に
修行の道に進まれるのですが、その話
は次回といたしましょう。



瓜生にある峨山禅師生誕地の石碑

毎年よ彼岸の入りには寒いのは 正岡子規

三月二十三日の彼岸会施食会にご家族そろってお参りください

昔から「暑さ寒さも彼岸まで」といいます。お彼岸を境に冬の寒さが弱まり、少しずつ春の陽気になっていきます。生活の節目として、大切にされてきたのが春分の日です。

春分の日を中心に、その前後それぞれ三日間をあわせた七日間が「お彼岸」です。今年は、三月十七日が「彼岸の入り」、二十日が「彼岸の中日」、二十三日が「彼岸結願」になります。

彼岸の中日となる春分の日には、太陽が真東から昇り真西に沈みます。私たちが生きているこの世「此岸」と、亡き人の世界である「彼岸」が最も近くなり、亡き人やご先祖様への思いが通じやすくなると言われています。

病気や悩みごとが多く先行きも見えず不安な此岸から、迷いや苦

しみのない心安らかな彼岸へ。お彼岸の七日間は、気持ちよく彼岸に旅立てるよう、生き方を見直し、善行を積んで、ご先祖様に感謝をささげましょう。

臨南寺では、彼岸結願の二十三日午後一時から彼岸会施食会を修行いたします。ぜひご家族そろってお参りいただき、ご先祖様に手を合わせましょう。当日ご都合のつかない方は、不参加でのご回向をお受けいたしますのでお問い合わせください。



3月23日はご家族そろってご先祖様に感謝をささげましょう



『坐看雲起時』の掛軸

この掛軸は、大本山總持寺の貫首を務められた江川辰三禪師の筆になるものです。

『坐看雲起時（坐しては看る雲の起こる時）』——この言葉は中国・唐代の詩人、王維の漢詩「終南別業」から採られています。その詩は次のように訳されています。

「中年の頃よりいささか道を好み、晩年南山の麓に居を構えた。気が向けば一人で出かける気ままな暮らしに、物事の勝ち負けも気にならなくなった。川に沿って歩いていくと水の湧き出る処に

辿り着き、腰を下ろし悠然と雲の湧き起こる様子を見ていた。偶然木こりの老人に出会い、話が尽きず帰る時を忘れてしまった。」

太字の部分が漢詩では、

行到水窮處

行きては到る水の窮まる處

坐看雲起時

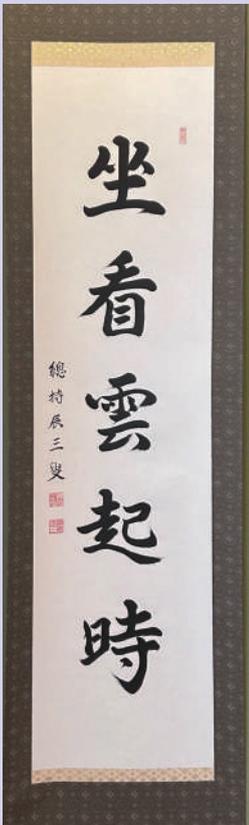
坐しては看る雲の起こる時

となっており、江川禪師はこの「坐看雲起時」の語を軸にされたのです。

そこには俗塵を離れ自然を楽しむ詩情が込められています。水のように無相、雲のように無心——江川禪師は禅の理想とする境地に重ねてこの語を軸にされたのでしょう。



江川辰三禪師



この掛軸は、休憩所でご覧いただけます

「はんにや心響」第九回

『貧なるべし、なまじ財多くなれば必ずその志を失う』

道元禅師

この言葉は道元禅師さまの御教えを遺した書『正法眼蔵随聞記』に記された一文です。

「修行を一日一日只管に勤められればそれだけでよい。身の丈を超えるような財は修行の妨げになるだけだ。それぞれ人には天地が授けてくれた食分・命分があり、仏道を行ずる者には如来の福分もある。過分に求めなくとも自然とめぐりめぐってくるのだからそれで十分である。生活が貧しくとも心の豊かさを持つている方が僧侶としてふさわしい」というのが道元禅師さまの教えです。

僧侶は文字通りに受け取って良いと思いますが、一般の皆さんに「貧乏になりなさい」と言っているわけではありません。過分な財は心豊かな生き方の妨げ



山形県酒田市 正常院住職 成澤祐吾 老師

となるから余計に欲する必要はないよ……という教えです。

人間は弱いもので「上がった生活水準」を下げることに抵抗を感じ、元に戻れない性格を持っています。生きていく上で必要な命分を超えていても「もっともっと」と抱えようとする、蓄えようとする。例えば、昨年から高騰しているお米も「分け合えば」足りる量を生産されていても「奪い合う」から足りない、本当に必要な人に行き渡らない。現代の我々は「なまじ財多くなつた状態と言えるでしょう。『豊かさ』とは抱えたり蓄えたりすることではなく「手放す」ことにあると私は思います。『貧なるべし…』欲張らず、気持ちよく分け与え「志(心の豊かさ)」を失わずに生きてゆきたいものです。

合掌

臨南寺行持予定 (三月・四月・五月)

彼岸会お墓経

＊三月二十日(午後二時～四時)・二十一日(午前十時～十二時) お彼岸のお墓経を行います。臨南寺にお墓をお持ちの方に限ります。(回向料一万円)

がっしょう園マトリ彼岸供養

＊三月二十日(午前十一時)・二十一日(午後二時) 彼岸供養を行います。(回向料一万円)

彼岸会施食会

＊三月二十三日 本堂にて 午後一時～午後二時三十分

お彼岸供養の法要を行います。お彼岸はご先祖様に感謝する大事な期間です。ご先祖様を偲び、今あることを感謝いたしましょう。どなたでもご参加いただけます。(回向料一万円)

釈尊降誕会(花祭り)

＊四月八日 本堂にて 午前九時

お釈迦さまのご生誕の日に、お祝いの法要を行います。本堂前にお誕生仏と甘茶を夕方まで置いてあります。

がっしょう園マトリ合同法要

＊五月十日 午後二時～午後二時三十分

マトリにご納骨された方々の慰霊の法要を行います。マトリでご焼香していただけます。



坐禅会

毎月第一土曜日 午前八時～ 本堂にて

＊一月と八月はありません。中止する場合がありますので、前日にお電話でお問合せください。



絵馬を始めました

「にじいろ祈祷絵馬」を授与しています。光が当たるとキラキラと虹色に輝く絵馬です。願い事を書いて、奉納されるもよし、ご自宅で飾られるもよし。寺務所にお立ち寄りください。(千円)



キラキラと虹色に輝く絵馬

御朱印もお授けしています



臨南寺の御朱印

「お釈迦さまと椿」の御朱印

左が臨南寺の御朱印です。江戸時代、臨南寺には稜伽林^{りょうがりん}という学寮^{せんだんりん}がありました。「東の旃檀林、西の稜伽林」と並び称されました。旃檀林は駒澤大学の前身の一つとなりました。ご希望の方は寺務所にお越しください。(三百円)

右が「お釈迦さまと椿」の御朱印です。同じく寺務所でお授けしています。臨南寺の境内では三月頃まで椿の花をお楽しみいただけます。(書き置きのみ)(八百円)

Instagramも始めました



RINNANJI1645

「ほ〜っと」77号
令和8年3月

編集・発行：稜伽林^{りょうがりん}
「ほ〜っと」編集部
〒546-0034 大阪市東住吉区長居公園 1-32
TEL 06-6698-1001
FAX 06-6697-3330
Eメール：rinnanji@abeam.ocn.ne.jp

ホームページ：
<http://rinnanji.com>



編集後記

瑩山禪師物語は前号で終わり、今号からは大本山總持寺を瑩山さまから引き継いだ二祖、峨山禪師物語が始まりました。峨山禪師は多くの優秀な弟子をお育てになり、曹洞宗が日本で最大の教団に発展していく礎を築かれました。ご愛読いただければ幸いです(M)

お墓じまいのご相談は お早めに寺務所までどうぞ

「お墓を継いでくれる人がいない」「最近、お墓参りが大変になってきた」——今、さまざまな理由でお墓じまいを考えている方が増えています。

ご先祖さまからの思い出がたくさん詰まった、ご家族のための大切なお墓です。お墓じまいといっても、何から手をつけたいのかわからない人がほとんどだと思います。

そうかといって、何もせずに先伸ばししていると、時間だけが過ぎてしまいます。万一、当事者が亡くなると、役所の手続きを含めてさらに複雑さが増して、余計な費用も掛かってしまいます。

臨南寺には、合葬墓永代供養のがっしょう園マトリもごございます。お元気なうちに、早めに寺務所にご相談ください。

墓じまいの方法

お気軽に寺務所へご相談ください

01



新しい納骨先を
決める！

02



臨南寺で書類交付
墓石の撤去費支払

03



東住吉区役所で
改葬手続き

04



読経
お骨の引越し

コンサートのある午後は 混雑します

五月四日・五日、五月二十三日・二十四日はヤンマースタジアム長居でコンサートが開催されます。各日五万人規模のファンの来場が予想され、午後二時過ぎから混雑が始まります。お墓参りは午前中にお済ませください。

当日は午後七時に閉門させていただきます。ご了承ください。